



家庭教育 なう vol.08

2022年9月発行
恵那県事務所振興防災課 家庭教育担当 嶋倉
〒509-7203 恵那市長島町正家後田1067-71

TEL 0573-26-1111 (内線209)
FAX 0573-25-7129
Mail shimakura-shinzo@pref.gifu.lg.jp

幼稚園・保育園でできる家庭教育支援は...



家庭教育講話を熱心に聞く中津川市幼稚園教育研究会の皆さん(8月4日、西幼稚園にて)

サロン型を実際やってみて、人と話すと楽しいと感じました。この楽しさを親さんにも知ってもらい、そんな中で子育てができたら悩んでいることがあっても頑張れるのではと思うので、ぜひぜひ実践してみたいです。サロン型の持ち方もわかりやすく説明していただいたのでやってみたいです。

参加者の感想より

家庭教育学級は園で可能かどうかで始まったお話でしたが、「家庭教育学級とは？」というところが意外と聞くのにかかっていない自分自身が親同士のつながる教育学級が親同士のつながるというのを目的とするなど、本来に多種多様な地域の特徴や環境、時代でも変化していくものなのだろうと思えました。

中津川市の公立幼稚園の職員で組織している中津川市幼稚園教育研究会が8月4日、市立西幼稚園で家庭教育の研修会を行いました。講師は県事務所の家庭教育推進専門職が努めました。講話の冒頭、「幼稚園で家庭教育学級なんてできないという考えの人はありますか」と聞いたところ、該当はゼロ。幼稚園や保育園の先生とお話をしていると、たびたびそういった声を聞いたので、予想外の意識の高さにびっくり

くりするとともに、とてもうれしく思いました。どうしてもコロナ禍の影響もあって、今までも普通に組み組んできたことが制約される中、家庭教育への意識も薄くなりがちです。しかし、園で取り組み多くの活動が親が子育てを見直し、実際に取り組んでみる機会になっていて、それこそが園による家庭教育支援に他ならないことを理解いただけたいと思います。

私はよく今日やったよ
うな子育てサロン型の懇
談会をやるので、これか
らも続けていこうと思
いました。

「家庭教育」聞きなれな
い言葉だと思っていまし
たが、園でキャンペー
ンなどで普段から行っ
たことがそれにあた
るんだと感じました。

講話の主な内容

- ・園の先生と話をすると思う言葉「園では家庭教育学級なんてできません」は、本当なのか。
- ・家庭教育とは「親が子どもを家庭で教える技能や知識を学ぶこと」と言い換えると「親に対して子育てを教えること」。家庭教育の場面はいたるところにある。
- ・家庭教育学級とは「学級」形式で子育てを学ぶ場。ここでは親同士の仲間づくりも期待できる。
- ・実際に幼稚園や保育園で行われている家庭教育の例の紹介。
- ・家庭教育について 子育ての責任は親にある。園は支援をする立場。行政、祖父母、企業も家庭教育を支援する役割がある。
- ・園が行う多くの取組は、まさに保護者が行う子育ての園による支援となっている。「歯磨きのチェックカード」「早寝早起き朝ごはんの取組」などまさに家庭教育支援といえる。
- ・サロン型の意見交流は、親同士の双方向の学びの場として有効＝親の仲間づくりは子どもの仲間づくりにつながる。
- ・サロン型の意見交流を体験してみよう。
- ・まとめ 今すぐ子育てサロンを行うのは難しいけど、できるチャンスにやってみましょう。幼稚園や保育園では家庭教育をいっぱい支援しているよと胸を張って言いましょ。

先生のお考えと同様、親さん同士がつながりあっていくことが本当に大切だと思っています。でも本当に親という存在の在り方がすごく変化してきています。“つながり方”というものが本当に難しくなっていると感じます。本音の部分ではなく、つながることで苦しさを生む状況も多いようです。難しいですね。

中津川市家庭教育推進会議

中津川市家庭教育推進会議（以下、会議）が、8月25日に行われました。この会議は家庭教育に関わる部署の連携を図り、それぞれが共通の認識で家庭教育・子育て支援を推進することをめざして、家庭教育を主管する生涯学習スポーツ課の主催により行われています。



連携について話し合う家庭教育推進会議の参加者（8月25日 中津川市にぎわいプラザにて）

会議の参加者

- 市教育委員会より
- 学校教育課 教育研修所
- 幼児教育課
- 市民福祉部より
- 市民局健康医療課
- 福祉局子ども家庭課
- 市中央公民館
- 市立図書館
- 市社会福祉協議会
- 学識経験者（教育委員、
- 社会教育委員、支援セ
- ンター 専門員他）

20年以上の歴史あり！

会議に先立って行われたアンケート（左）に対して、「どんな取り組みをし、どんな成果が出ているのかわからない」「推進会議を進めることで行政の取組にどんな変化があったのか。」という回答がありました。コロナ禍の影響で2年間この会議が開催できなかったこともあって、会議の趣旨がうまく理解されていないのではないかと、担当者が会議の冒頭で「家庭教育推進会議とは？」と題してスライドを使って説明しました。

その説明によると、会議の前身は「中津川市家庭教育推進協議会」で、なんと平成13年に始まっていることです。平成24年頃に、推進会議と名前を変えて今に至ります。20年以上前から家庭教育の連携を進めてきたというずいぶん長い歴史があることがわかりました。

事前アンケートの項目

- ①困っていること
- ②連携していること
- ③これから連携できそうなこと
- ④その他



サロン型で意見交流！

会議の進行に特徴があります。家庭教育学級のようにサロン型で情報交流です。10分間の交流の後、各グループの代表が全体に概要を伝えます。もう一度同じグループで、今後連携できそうなことを意見交流して、代表者が発表という方法でした。やはりサロン型だと楽に話ができ、さらに双方の意見交流ができていいですね。深い交流ができます。

2回のグループでの交流を通して、具体的な交流策が見つかりました。

「子ども食堂」について社会福祉協議会と子ども家庭課と図書館が連携して進めることができそうです。

コロナ禍によりしばらく止まっていた健康医療課と図書館が連携した「乳幼児健診の際の読み聞かせ活動」について、少し形を変えて再開したい。

企業との連携も大切では？

会議の最後に有識者からアドバイスをいただきました。

子育て支援は子どもの育ちを0歳から20歳までみることに。この会議にぜひ仕事場側の支援（企業側の代表者の参加）が必要だ。

リニア・リモートワークで中津川に人が集まるチャンス。母子の生活支援こそ移住のきっかけになる。

会議が始まって20年、いくつかの課題はあるものの、この営みこそが、中津川市の家庭教育の広く深い展開につながっているのです。今後の展開が楽しみです。